【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成23年7月21日(2011.7.21)

【公表番号】特表2010-528650(P2010-528650A)
【公表日】平成22年8月26日(2010.8.26)
【年通号数】公開・登録公報2010-034
【出願番号】特願2010-510914(P2010-510914)
【国際特許分類】
Ａ２４Ｄ　3/14　(2006.01)
Ａ２４Ｄ　3/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ２４Ｄ　3/14
Ａ２４Ｄ　3/04

【手続補正書】
【提出日】平成23年6月6日(2011.6.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
香味放出を制御した喫煙物品であって、
タバコロッドと、
下流端と、
初回に送出され、かつ第１の機構によってトリガされる第１の徐放性香味料、及び
前記初回とは異なる２回目に送出され、かつ第２の機構によってトリガされる第２の徐放性香味料、
を含む香味放出を制御した製品と、
を含み、
前記香味放出を制御した製品は、喫煙物品の前記下流端と接触する、
ことを特徴とする喫煙物品。
【請求項２】
前記第１の徐放性香味料及び前記第２の徐放性香味料は、水分の追加、ｐＨの変化、温度上昇、及びこれらの組合せから成る群から選択された第１の機構及び第２の機構によって放出されることを特徴とする請求項１に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項３】
前記第１の徐放性香味料及び前記第２の徐放性香味料は、少なくとも１つのマイクロカプセル内に組み込まれることを特徴とする請求項１に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項４】
前記香味放出を制御した製品は、フィルムであることを特徴とする請求項１に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項５】
前記フィルムは、溶解可能、分解可能、又はその両方であることを特徴とする請求項４に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項６】
前記香味放出を制御した製品は、リップクリーム型製剤であることを特徴とする請求項

１に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項７】
前記香味放出を制御した製品は、喫煙物品の前記下流端の外側表面に付加されることを特徴とする請求項１に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項８】
前記第１の徐放性香味料及び前記第２の徐放性香味料は、メントール、ミント、チョコレート、甘草、果実香味、タンジェリン、シトラス、チェリー、ガンマオクタラクトン、バニラ、エチルバニリン、気分転換香味、スパイス香味、シナモン、サリチル酸メチル、リナロール、ベルガモット油、ゼラニウム油、レモン油、ジンジャー油、タバコ香味、スムージング又は清涼活性化合物、苦味剤、及びこれらの組合せから成る群から選択されることを特徴とする請求項１に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項９】
前記第１の徐放性香味料及び前記第２の徐放性香味料の各々は、同じ香味料を含むことを特徴とする請求項１に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項１０】
前記第１の徐放性香味料及び前記第２の徐放性香味料の各々は、異なる香味料を含むことを特徴とする請求項１に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項１１】
前記第１の徐放性香味料及び前記第２の徐放性香味料は、ｃｈｅｍｅｓｔｈｅｓｉｓ剤を含むことを特徴とする請求項１に記載の香味放出を制御した喫煙物品。
【請求項１２】
香味放出を制御した製品に喫煙物品の下流端を接触させる段階、
を含む、
第１の徐放性香味料及び第２の徐放性香味料を含有する、前記請求項１に記載の香味放出を制御した製品の製造方法。
【請求項１３】
前記第１の徐放性香味料は、前記第２の徐放性香味料とは異なる１つ又は複数の香味料を含むことを特徴とする請求項１２に記載の方法。